

活動報告：市民・地域・行政で取り組む「がん」対策 ～地域健康ケア計画に基づくがん対策～

大島みどり、小林洋子（飯田市役所保健福祉部保健課）

キーワード：飯田市、がん検診、地域健康ケア計画、健康づくり家庭訪問

要旨：飯田市は昭和60年からがんが死因の第1位である。しかし、がん予防の第一歩であるがん検診受診率は決して高くなかった。平成22年度に飯田市ではがん検診受診者を増やすために、「飯田市地域健康ケア計画」に基づき、がん検診受診率向上を目標にした。具体的な取り組みとしては、①がん検診の申込書を世帯別に郵送し、検診項目を個人ごとに明示した。②申込書の回収にあたっては、まちづくり委員会、健康福祉委員会などのソーシャルキャピタルにより地域ぐるみで取り組んだ。③各地区の保健師が、健康づくり家庭訪問事業において受診の呼びかけをした。この結果、平成23年度にはがん検診受診者が2倍になった。市民、地域、行政が協働としての役割を果たしたことが、優れた結果につながったと考える。

A. 目的

飯田市のがんによる死亡割合は、全死亡数の23.5%（H22）である。一方、がん検診受診率は目標としている長野県の受診率に達していなかった。

そこで、平成22年度からがん検診受診率を上げるための工夫をした。

ここでは、取り組みの内容と成果について報告する。

B. 方法

①飯田市地域健康ケア計画について

飯田市では、平成22年度に「健康」をキーワードにした法的根拠を持たない保健福祉の総合的計画である「地域健康ケア計画」を策定した。この計画は、目標に具体的な数値が入っているのが特徴である。図1に示すとおり、計画の重点プロジェクトの1つに「家族ぐるみで取り組む『がん対策』」を掲げた。

がん検診の申込書を従来の回覧による通知から、市でお勧めする検診項目を個人ごとに表示した「がん検診申込書」を世帯ごとに送付した。

申込書の回収にあたっては、市内20地区のまちづくり委員会、健康福祉委員会などのソーシャルキャピタルにより地域ぐるみで取り組んだ。

②健康づくり家庭訪問事業について

地域健康ケア計画では、保健師の対人サービスとしての家庭訪問を重点プロジェクトに掲げた。市内の約39,000世帯のうち、年間で約1,000世帯に家庭訪問を実施した。

また、従来から母子保健で行っている2か月児訪問時にも、対象者の把握を行った。（約1,000世帯）

各種訪問を活用して、がん検診の受診勧奨をした。

③一般的な介入としての広報の強化

がん検診についての広報、啓発をさらに強化するた

め、市の広報誌へ乳がん検診、乳房自己検診法の掲載をした。飯田市ケーブルテレビによる「テレビ広報」では、検診によって初期がんが発見された方に同意の上で出演いただいた。

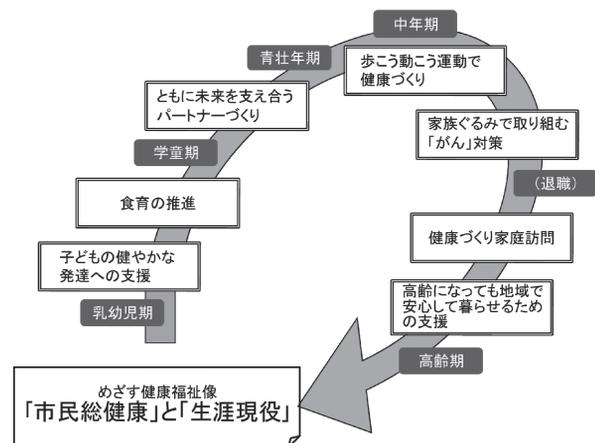


図1 地域健康ケア計画
ライフステージからみた重点プロジェクト

C. 結果

地域健康ケア計画の重点プロジェクトをはじめとした取り組みにより、以下のような成果が得られた。

①家族ぐるみで取り組む「がん」対策

平成23年度の「がん検診申込書」から、検診対象者に世帯ごとの申込書を郵送して、まちづくり委員会等での申込書の回収活動、講演会等を行ったことで、検診を受診する意識が広がり、がん検診の受診者数及びがん発見数が大きく増加した。

表1 がん検診受診者数とがん発見数の推移

		22年度	23年度	24年度
胃がん	受診者数	2,545人	5,687人	4,425人
	受診率	7.6%	17.3%	13.6%
	がん発見数	1人	10人	5人
大腸がん	受診者数	3,945人	9,268人	8,508人
	受診率	11.7%	29.0%	27.1%
	がん発見数	8人	14人	6人
肺がん	受診者数	7,310人	8,121人	8,359人
	受診率	23.3%	27.9%	28.7%
	がん発見数	9人	6人	6人
子宮がん	受診者数	1,750人	2,387人	2,015人
	受診率	15.4%	19.5%	20.8%
	がん発見数	2人	0人	(調査中)
乳がん	受診者数	2,677人	4,748人	4,103人
	受診率	27.5%	28.7%	30.5%
	がん発見数	3人	3人	6人
合計	受診者数	11,455人	23,478人	21,656人
	がん発見数	22人	33人	(調査中)

②健康づくり家庭訪問

平成22、23年度はモデル地区の全戸訪問、平成24年度は退職などで生活環境が変化する時期にあたる62歳を対象とした家庭訪問を全市で実施した。

訪問を通して飯田市の保健事業の啓発や健康づくりのアドバイスをを行ったことにより、がん検診の申込率が向上した。

表2 健康づくり家庭訪問による、がん検診申込率

		23年度	24年度
62歳	がん検診申込率（胃がん）	45.6%	52.7%
62歳	がん検診申込率（大腸がん）	46.6%	52.1%

D. 考察

飯田市のがん検診受診率が低かった理由としては、市民がどの検診を受けることができるのか、検診の内容や受診方法など、十分な認識がされていないと考えられる。

がん検診の申込方法の変更、家庭訪問、地区での講演会や学習会、広報等で個人に周知されたことで、受診率は国の目標値である50%には届かなかったが、目標としてきた県の受診率に近づけることができた。

申込書の回収にあたっては、健康福祉委員が取りまめを行なった地区も多い。地区の委員が回収することで、平成22年に比べて23年の回収率が上がったことが示唆された。また、地区別の回収率を示したことにより、それぞれの地区で回収率を上げるための意識が高まった。

ソーシャルキャピタルの活用によって、市民ががん検診を自分のこととして捉えることができ、地区の委員本人の受診にもつながったと考えられる。

成果が上がった一方で、がん検診申込書の回収率はこの3年間50%台で推移しており、約4割の方は受診状況の把握ができていない状況である。今後の取り組みが課題である。

E. まとめ

平成22年度から行ったがん検診受診率向上の取り組みは、市民、地域、行政との協力があった功を奏した。

市民の健康は市の財産である。より多くの市民の皆さんが心身ともに健康で幸せに暮らせるように市では検診内容をよりよくするなど取り組んでいる。

今後も市民の皆さんと一緒に家族や地域の健康について取り組んでいくことが必要と考える。

F. 謝辞

この報告にあたり、がん対策推進にとともに取り組んでくださった飯田市民の皆様、飯田医師会の先生方には、感謝の念にたえません。本当にありがとうございました。

飯田保健所の佐々木隆一郎所長におかれましては、適切な助言とご指導をいただきました。心謝いたします。

最後になりましたが、地域健康ケア計画の策定と推進、がん検診受診率向上に取り組んだ保健師の皆様をはじめ、関係職員の皆様に感謝いたします。